

# 宮城山岳通信 第20号

## 目次

巻頭言	支部長 . . . . . 2 頁
定例役員会報告	事務局 . . . . . 2~4 頁
宮城支部山行報告	
☆厳冬期山行（黒鼻山）（共益事業山行）佐藤昭次郎 . . . . .	4~5 頁
☆早春山行（小斎峠から鹿狼山縦走）（共益事業山行）千石信夫 . . . . .	5~6 頁
令和2年4月~令和2年6月の行事予定	事務局 . . . . . 6 頁
新型コロナウイルスへの対応について	支部長 . . . . . 6~7 頁
編集後記	富塚和衛 . . . . . 11 頁

巻 頭 言  
新型コロナウイルスへの対応

支部長 冨塚和衛

2019年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は世界全体の感染者数が500万人(5月23日現在)を超え、全世界の経済・社会生活に甚大な影響を与え続けている。このような状況から2020年3月11日になって世界保健機構(WHO)は「パンデミック(世界的大流行)」を表明した。

日本においても2月中旬頃から確認されはじめた新型コロナウイルス感染者は4月初旬をピークとして緩やかに減少してきているが、未だ終息には至っていない。その感染者数は1,7万人(5月23日現在)を超えている。日本政府は、感染拡大を回避し医療体制が医療崩壊の危機に陥らないよう新型コロナウイルス感染症の感染爆発を抑え込むため、4月7日に5月6日まで7都府県に「新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づく「緊急事態宣言」を発出した。更に、5月4日になって、5月31日の間で対象を全都道府県の区域に拡大した。この宣言を受け、都道府県知事は臨時休校をはじめとする「不要不急の外出」、「感染リスクの高い三蜜の回避」など社会活動、経済活動各種の自粛要請を発出した。

このような政府及び都道府県の動き・要請に応じ、日本山岳会古野淳会長からも「新型コロナウイルスへの対応について」等、数次に渡り日本山岳会としての新型コロナウイルスに対する基本的な考え方が示されている。また、山岳4団体(公益社団法人日本山岳会・スポーツクライミング協会、日本勤労者山岳連盟、公益社団法人日本山岳会、公益社団法人日本山岳会ガイド協会)からも、緊急事態宣言の未解除都道府県山岳関係者に対する山岳スポーツ活動の自粛、及び解除県の関係者に対する慎重な行動への理解と協力をお願いする文章が発出された。これを受け、宮城支部においても、当分の間、令和2年度に計画していた事業について、当面、活動を自粛することとし会員等に対し岳人として節度ある行動をお願いした。

感染リスクが高い三蜜を避け外出自粛等のコロナ対策が功を奏したのか4月11日頃をピークに新感染者数は減少傾向を示すようにな

った。政府は、専門家会議の意見を聞きつつ、新型コロナウイルスの緊急事態宣言について段階的に5月25日を最後に全国で解除した。解除されてもウイルスは消滅した訳ではない。感染リスクをコントロールしながらの社会活動、経済活動が始まったに過ぎない。ウイルスとの戦いは治療薬・ワクチンが開発されるまでの長い道程となる。

山岳4団体は、この緊急事態宣言全面解除を受け、『「自粛」要請解除後の登山・スポーツクライミング活動ガイドライン～感染させない・感染しないために～』と題し、山岳スポーツ愛好者宛に発出した。

これによれば、今回の世界的新型コロナウイルスの蔓延により、社会構造、経済が大きく変化し、それに対応する新しい生活様式の確立が必要となり、登山もスポーツクライミングも新しい視点からの活動指針が必要としている。支部の登山活動も、ガイドラインを参考にしつつ、新型コロナウイルスを意識した、安心で安全な宮城の地域性をも踏まえた登山行動がこれからは求められる。新しい登山スタイルはいかなるものなのか、山岳愛好者に新たに課せられた課題でもあるのではないだろうか。

### 【定例役員会議事録】

☆令和2年1月定例役員会議事録

日 時：1月15日(水)18:00～

場 所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：冨塚支部長、草野、柴崎、千葉、冨塚(真)、佐藤

計6名

#### 《報告事項》

##### (1) 総務・財務委員会からの報告

- ①山岳関係機関からの受理状況
  - ・特別事業補助金申請案内について
  - ・第9回登山教室指導者養成講習会について
- ②蔵王樹氷原を滑る会の開催について
- ③第36回全国支部懇談会の案内について
- ④第36回東北・北海道地区集会の案内について
- ⑤令和元年度支部連絡会議出席報告について

(2) 山行集会委員会からの報告

- ①初冬山行実施結果について第8回登山教室実施結果について
- ②初冬山行実施計画について
- ③厳冬期山行実施計画について

(3) 会報編集出版委員会からの報告

- ①宮城山岳通信第19号の発行について
- (4) 他委員会等からの報告
- ①令和元年度宮城支部晩餐会&オークション実施結果について

《審議事項》

(1) 令和2年度支部事業計画(本部提出)について

・本部指定様式により令和2年度の事業計画を公益事業、共益事業に分けて記載し、本部に提出した事を事後報告し了承された。

(2) 令和2年度支部予算書(本部提出)について

・本部指定様式により、公益事業、共益事業に分け作成した予算書を役員会で報告・説明し、期日までに本部に提出する事について了承を得た。

《その他》

(1) 永年会員に関して

・令和2年度は、会員番号が7,000番台の会員が永年会員に該当することとなることから、宮城支部には7,000番台の会員が多数おり、その情報をお知らせした。

(2) 公益社団法人宮城県スポーツ協会に関して

・宮城県内の各種スポーツ団体を会員とスポーツ協会の仕組みを規約に基づき情報提供した。(宮城支部が単独で会員となる事が出来るか否かについて質問があったため。)山岳関係では宮城県岳連には会員資格があるが、宮城支部には会員資格なし。

(3) 日本山岳会120周年記念事業プロジェクト「日本列島古道調査」について

・この事業は、本部では4月から本格的に動き出す予定である事を説明、支部としても2~3の古道調査を実施する方向で取り組んではとの意見があった。

以上の事項について承認または了承される。

(事務局報告)

☆令和2年2月定例役員会議事録

日時：2月20日(木)18:00

場所：仙台市SPAセンター5F会議室

出席者：冨塚支部長、草野、柴崎、千石、冨塚(真)、高橋、佐藤

計7名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

- ①山岳関係機関からの受理状況
  - ・令和元年度事業報告書の提出(〆切2月29日)について
  - ・令和元年度会計報告の提出(〆切3月31日)について
  - ・日本山岳会設立120周年記念事業P「日本列島古道調査」について

- ②退職者について
- ③第36回全国支部懇談会参加者について
- ④第36回東北・北海道地区集会参加者について

(2) 山行集会委員会からの報告

- ①厳冬期山行実施結果について
- ②早春山行実施計画について
- ③令和2年度月例山行実施計画について

(3) 会報編集出版委員会からの報告

- ①宮城山岳通信第19号の発行について

(4) メディア委員会からの報告

- ①リニューアル版ホームページの公開について

《審議事項》

(1) 遠藤会員退会に伴う後任の人選について

・所要の為退会した遠藤会員が務めていた副支部長、会報・編集出版委員長、留守本部委員職の後任について審議した。その結果、副委員長職⇒支部長一任  
会報・編集出版委員⇒当面事務局担当  
留守本部委員⇒千石会員を承認。

(2) 佐藤山行集会委員長の辞任意向の取り扱いについて

・辞任を了解し、後任には、支部長が兼務する事で承認された。

《その他》

(1) 宮城支部移動総会について

松島町富山(富山観音堂)で実施する事で了承される。

(2) 会計監査について

日程調整し、市内飲食店で実施する事です  
承される。

以上の事項について承認または了承される。  
(事務局報告)

☆令和2年3月定例役員会議事録

日時：3月18日(水)18:00~20:30  
場所：仙台市シルバーセンター5F会議室  
出席者：富塚支部長、草野、柴崎、横山、富塚  
(真)、高橋、佐藤、千葉、千石  
計9名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

① 山岳関係機関からの受理状況

- ・ 支部事業報告書・会計報告書について
- ・ コロナウィルス感染関連通知について
- ・ 退職者について

(2) 山行集會委員会からの報告

- ① 厳冬期山行実施結果について
- ② 春山山行実施計画について
- ③ 宮城支部月例山行担当者(案)について

(3) 会報編集出版委員会からの報告

- ① 宮城山岳通信第20号掲載記事原稿作成依頼について

(4) メディア委員会からの報告

- ① リニューアル版ホームページ揭示項目等に関する各委員長への依頼について

(4) 自然保護・科学委員会からの報告

- ① 全国自然保護委員会参加報告について

《審議事項》

(1) 2020年度支部総会資料(案)について

- ・ 第1号議案から第6号議案まで資料について詳細を事務局から説明、一部修正で了承される。(積雪時登山技術講習会に関し追記)

《その他》

(1) 令和2年度期宮城支部役員・各種委員名簿について

資料により説明、了承される。

新役員⇒鳥山文郎

会計監事退任⇒木皿謙

新会計監事⇒横山哲

以上の事項について承認または了承される。  
(事務局報告)

【宮城支部山行報告】

☆厳冬期山行

(共益事業)

- ・ 実施日：令和2年2月11日(月)
- ・ 山域：船形連峰黒鼻山(842, 7m)
- ・ コース：泉ヶ岳大駐車場⇒水神コース登山口⇒関口⇒(サビ川渡渉)⇒背尾根⇒黒鼻山山頂⇒(登路下山)⇒駐車場
- ・ 参加者：佐藤昭次郎、草野洋一、富塚和衛、富塚真味子(以上会員)、山田孝司、多田孝之、佐藤富士子(以上支部友) 計7名
- ・ 報告者：佐藤昭次郎

最近の温暖化で、厳冬に相当する地域は北海道くらいかな？と、思えるほど近年はその進行を顕著に感じる。

今回 厳冬期山行の対象とする、「黒鼻山」普段はこの地の人気の山、「泉ヶ岳登山」の際背景となる山である、それだけ登山者が少なく雪と遊ぶには丁度いい山なはずであるが、この冬は記録的な暖冬と小雪で、仙台市民のスキー場であるこのスキー場は未だ開設していない。

この場所を集合場所として、7:45分にメンバーが揃う。

今回の行動計画と雪の状態からカンジキ携行を確認後、予定通り8:00時行動開始

路面は未だ凍っているが積雪は無い。泉ヶ岳水神コースを入ると間もなく8:20分「関口」の表札板がある、この場所「堰」が正しいのでは？と思いながら、ここから分かれヒザ川を渡渉する、今年は昨日の入山者のトレースがそのまま残るほど雪が無い。

カンジキなしでコースを辿り、途中で休憩を入れながら尾根上の三叉路へ9:25分着、積雪は例年の半分もない。

ここで息を整え、あとは尾根上の樹林帯の中を25分、黒鼻山表札板が頭上の木にくくられている山頂着9:25分、記念写真を撮り、余りにも早い到着で下山して昼食することを確認後、休憩とした。

9:45分下山開始、時間がたっぷり今回ならではのコース取りの面白さを実感して頂くように、途中から麓の林道(宮城の自然歩道 泉区～青葉区定義)経由し、登山口に戻るコースに変

え、厳しさの無いのんびりとした山行を参加者であじわい12:10分登山口に戻り施設食堂での昼食をしながら反省会を、冬季の体力維持を目的とした山行を終えました。



雪が降って良かったよ。  
黒鼻山(厳冬期山行) 2020.02.11

### 黒鼻山山頂

### ☆早春山行報告

(共益事業)

- ・実施日：令和2年3月28日(土)
- ・目的地：小斎峠から鹿狼山縦走
- ・コース：(7:30)鹿狼山登山口集合～(車で小斎峠まで移動)～(8:05)小斎峠登山開始～金華山(8:20)通過～音羽森(8:50着 9:00発)～主義山(9:25着 9:30発)～権現堂山(10:00着 10:10発)～地藏森(11:10着 11:15発)～福田峠(11:50着【昼食】12:20発)～五社壇(12:50着 13:00着)～鈴宇峠(13:20着 13:25発)～鹿狼山着(14:30着 14:40発)～鹿狼山登山口着(15:15) 解散
- ・参加者：千石信夫、冨塚和衛、冨塚真味子、佐藤昭次郎、千葉正道、横山哲、草野洋一(以上会員)、村上敏郎、鳥田伊志、多田孝徳、佐藤富士子、山田孝司(以上支部友)、川島民子、工藤千鶴子、斎藤みい子、佐藤洋子、白幡典子、森宮子(以上一般者) 計18名
- ・報告者 千石信夫

平成31年度の最後の行事となった早春山行。一昨年に続き阿武隈山地を選定した。

今回は山元町と丸森町との境界の小斎峠を起点として鹿狼山までの全長約10kmの行程を凡そ7時間を想定し計画した。

28日早朝7時30分に鹿狼山登山口(新地町)

に集合。早朝から駐車場には一般の登山者が登り始めていた。天候は長期予報では雨予想であったが、運よく曇り程度で好調な滑り出しとなった。

参加者を確認し、本日の行程内容説明後、車を4台にまとめて小斎峠まで移動した。山元町側から峠を越え二股を左方向に走行してすぐに左側に駐車スペースがある。その地点から18名で登山開始する。金華山までは急な登りを15分ほどで到着。途中1人体調不良により引き返し高橋二義車で収容となった。金華山を過ぎた頃から地藏森の間は特に倒木が多く大木を跨いだり潜ったりと苦労の連続であった。台風や強風の傷跡が生々しい状況であった。主義山を過ぎ花嫁峠のあたりもルートが分かりにくい状態であった。権現堂山から地藏森までのルートでは稜線沿いにルートを取り笹藪が刈り払いされている部分を辿り登山道から外れてそのまま地藏森に到着した。



地藏森からは若干西よりに登山道が続いておりそのまま福田峠まで下る。福田峠で高橋会員と合流し一緒に昼食とした。ここで2名がリタイヤすることになり、15名で縦走継続する。ここからは登山道も倒木も少なくなって前半から比べれば歩きやすくなり順調に距離を稼ぐことができた。五社壇からは特に迷うようなところもなく途中からは林道に入り鈴宇峠まで下る。いよいよ最後の鹿狼山の蔵王眺望コースの登山口に到着小休止して七峰目(ななうねめ)の鹿狼山に向かう。ここからはさらに登山道は整備され歩きやすくなったが、勾配もきついところもあり特に山頂直下のロープが設置してあるところは最後の登りで苦労した。14:30鹿狼山に到着山頂からは眺めはよく西には蔵王の山々、北には遠く栗駒山が微かに真



っ白く見え、我々を楽しませてくれた。いつ来てもここは眺めが良い所だ。記念写真撮影し樹海コースを下山する。



前半の部分ではあまり花を見かけなかったが、後半はフサザクラ、カタクリ、イチゲなどが奇麗に咲いており疲れを癒してくれた。15時15分登山口駐車場に無事七峰縦走終了した。

今回の山行では、ふたくちさんぽ会の皆さんが参加され、いつになく大人数となり楽しく歩くことができた。

このルートは、2018年に三宅会員と二人で歩いているが、その時はあまり迷うようなところはなかったのだが、今回は昨年台風や今年に入ってから度々の強風などの影響もあってか、かなりの倒木があり歩きにくく、そのうえルートが分かりにくくなっていた。そのような状況でも所要時間はあまり変わらず予定の時間に下山できた。

以上

#### 【今後の行事予定】

◎2020年4月

☆4月上旬

宮城山岳通信第20号発行

☆4月19日(日)

春山山行(北泉ヶ岳・氾濫原)

☆4月26日(日)

令和2年度移動総会(富山観音堂)

◎2020年5月

☆5月2日(土)～4日(月)

積雪時安全登山技術講習会(蔵王)

☆5月14日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆5月16日(土)～17日(日)

第36回全国支部懇談会(宮崎市)

☆5月24日(日)

第10回親子登山教室(戸神山)

◎2020年6月

☆6月上旬

宮城山岳第24号発行

☆6月20日14日(日)

露払い山行(未定)

☆6月18日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆6月20日(土)

本部総会(東京:プラザホテル)

☆6月26日(土)～27日(日)

第36回東北・北海道地区集会(八戸)

新型コロナウイルスの感染拡大のため令和2年度第1四半期の活動は自粛することとしました。

(事務局担当)

【新型コロナウイルスへの対応について】  
会員等の皆様へ

支部長 富塚和衛

中国武漢市で発生した新型コロナウイルスの感染が全世界で爆発的に拡大し猛威を振っています。日本におきましても、感染爆発の重大局面にあるとして、政府から「緊急時宣言」が大都市圏の7都府県に対して発出されました。

このような社会情勢の中、日本山岳会会長からは、大都市圏の会員に対して、①登山を含む不要不急の外出を当面(5月6日)の間、差し控える。②3蜜(密閉・密集・密接)を避ける。③団体(5人以上)の行動を慎む。④遭難事故等により、医療システムへの負荷を高めてしまう事への考慮などについて節度ある論理的な思考での行動要請がありました。支部に対しては、支部の実情に合わせて、適切な判断をお願いしたい旨の要請がありました。

また、宮城県内におきましても、感染拡大を受けて、宮城県知事、仙台市長、宮城県医師会長、仙台市医師会長の4名から、県民に感染防止策を呼び掛ける異例の緊急メッセージが発表され、更には、宮城県医師会からは「宮城県医療機器宣言」が発出され、知事からは不要不

急の外出を控えて欲しい旨の県民に対する呼びかけもありました。(4月11日現在感染者数45名、東北地方最大)

このような、状況に鑑み、宮城支部が令和2年度に計画しております事業につきましては、当面(4月～6月計画分)、中止とし活動を自粛することとしました。不確実な面もあり、活動自粛が空振りに終わるかもしれませんが、見逃しになっては元も子ありません。宮城支部としては、早めの対応をもって臨みたいと思います。但し、活動自粛はあくまでも宮城支部としての団体活動を自粛するもので、個人の活動を自粛要請するものではありません。

新型コロナウイルス感染拡大は何時収束に向かうか先が見えない状況ではありますが、今回の事業自粛についてご理解とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

#### 《中止する行事》

- (1) 宮城支部総会⇒メールにより総会を考えたいと思っています。
- (2) 春山山行(4月19日)
- (3) 積雪時登山技術講習会(5月2日～4日)
- (4) 5月役員会(5月14日)
- (5) 第10回親子登山教室(5月24日)
- (6) 露払い山行(6月14日)
- (7) 6月役員会(6月18日)

(令和2年4月21日発出)

#### 編集後記

「宮城山岳通信」の発行を担当していました遠藤副支部長が、急遽、仕事の関係で退任されました。前遠藤支部長は「宮城山岳通信」の発行の意義を「日本山岳会宮城支部の活動の内容をできるだけ定期的にかつタイムリーに支部関係者の皆さんにお伝えする。」事だと常々お話されておりました。その意を継ぎ、今回発行の宮城山岳通信第20号を予定通りに発行したいと考えておりましたが、社会生活を一変する新型コロナウイルス感染の問題のあり、一ヶ月遅れの発行となりました。まずは、前任の意を損なうことなく発行できたことに、前任の意に沿

い、責任と一端を担うことが出来たのではと胸を撫で下ろしております。

休まずにこのような機関誌・会報をタイムリーに発行して行く為には、会員皆様のご協力とご支援が何よりも必要であると、会報・編集出版委員一同痛感しております。今後とも宮城支部の関係者の皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

会報編集出版委員長 富塚和衛

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2020年6月10日 発行人 冨塚和衛

会報・編集出版委員会 冨塚和衛 千石信夫 細川光一 三宅泰 鳥山文蔵

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中 9-12